

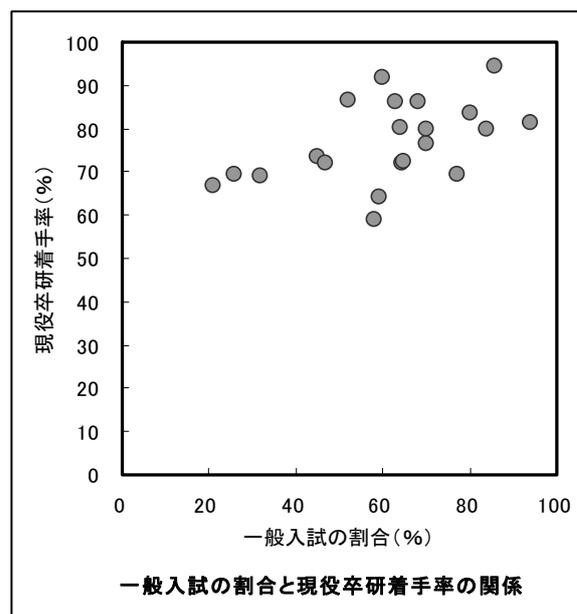
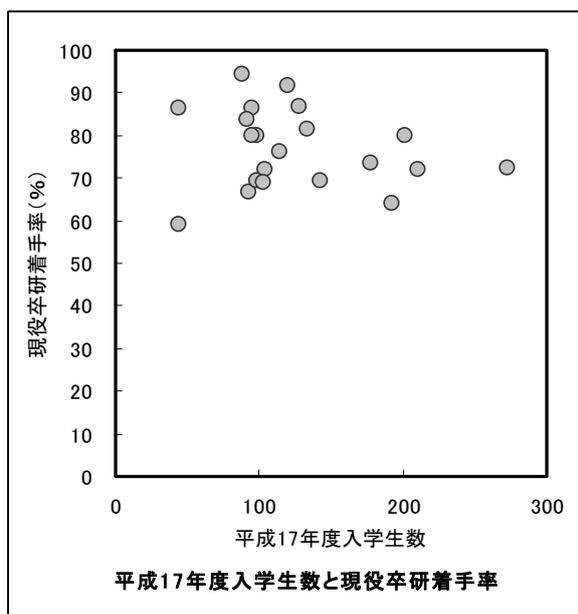
テーマ：いかにしてモチベーションの高い学生を育てるか

日本大学生産工学部
応用分子化学科
日 秋 俊 彦

教育の理念や目標にそれぞれ特徴をもつ私立大学が、学士力の質の向上をめざして、どのような教育改革をするべきなのかを議論するために首題のようなテーマとした。アンケートは入試、教養科目および初年次教育に対する設問に焦点を絞った。また、シンポジウムのテーマは「キャリア教育」であった。

1. 学生数と現役卒業率

入学した学生が順調に 4 年間で卒業できる割合（現役卒研着手率）は、平均 76.9% であり、最大 94.3%、最小 59.1% であった。詳細は下図の通りである。また一般入試入学者の現役卒研着手率から、一般入試入学者の多い大学は現役卒研着手率が高い傾向にあった。当学科は、当時平均値より僅かに低い現役卒業率であったが、その後現役卒業率を上げる対策として講義内中間試験や再試験を実施するなどの対策を講じ、85%程度に向上している。



2. 教養教育

教養教育科目の設置に関する考え方として次のような回答があった。

○1～4年次を通して教養教育を設置しており、未来を担う理工学研究者・技術者を育成するために、人間・社会および自然に対する深い洞察力や知力の養成を促す科目分野と位置づけている。○主体的に科目を選択することで、地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養を身につけることができるよう、バラエティに富んだ科目群を設定している。○国際的感覚やコミュニケーション能力を持った化学技術者の育成を目的としている。

教養教育科目の英語、数学、物理、化学で能力別クラス分けをしている大学は 80%あり、能力別クラ

ス分けが学生の学習意欲の向上につながっており（85%）、学力向上にもつながっている（85%）という回答であった。

3. 初年次教育および動機付け科目

初年次教育としてのプログラムを持っている大学は78%あり、主な設置目的は①専門教育への移行支援 36%、②高校の補習 32%、③中退の抑止 16%、④教養教育の一環 16%であった。具体的な内容は、レポートの書き方など表現技法、コンピュータをはじめとする情報リテラシー、プレゼンテーション技法、文献検索や図書館利用などであった。

動機付け科目を設置している大学は67%あり、その内容は○各教員が自身の専門分野や研究内容を説明する。○身近な化学製品についてデザイン、歴史、開発にケミストがどのように携わってきたかを講義する。○応用化学の概論などがあつた。

4. 現役卒業率の向上と卒業生の質の向上を同時に実現するための対策

自由記述として次の様な意見があつた。○特に出口管理はしていないが、卒業研究をしっかりと行うことが重要であると考えている。○少人数クラスでの授業が、学習姿勢の喚起のためにも初年度～2年次に設定されており有効と考えるが、内容を改善する必要があると感じている。○学習指導副主任による面談やカウンセラーによる面談。○学生ポートフォリオを作成して、個人個人の特性をよく把握し指導している。○学生との学習意欲を高めるため、担任制度の充実、ゼミナールや実験における指導の充実、一部個別指導等を根気よく行っている。○現役卒業率の向上のために心理カウンセラーを含めた学生相談が役立っていると考えている。また、卒業生の質の向上のためにインターンシップを今後推進して行きたい。